

平成 28 年 10 月 24 日

『親子の絆を深めよう』

親子で鉛筆デッサンはじめませんか

今日はデッサンの描き方、コツなどをお伝えしますがその前に

「親子の絆を深めよう」というテーマですから、この機会に是非お伝えしたいことがあります。絵に関してお子様とのかかわりについてです。

絵を描けない人間はいません。最初から絵を描くのが嫌いな人はいないと思うのです。

絵は描けば描くほど上手くなるものですから、描かなくなるきっかけが絵を描けない大人を生みます。絵が描けません、絵は苦手です、という大人は幼少体験または成長期の経験により生まれます。

絵はその人自身が表れる非常にデリケートなものです。描いた絵を否定しないことが大切です。

絵が描けなくなったこどもは一番身近な母親の、何気ない否定の言葉の影響が大きいです。または絵をうまく描ける器用な兄姉の存在によることもあります。

私の経験によると、育児中のお母さま方はとても絵がお上手です。育児・家事・学校のこと・お仕事など、いろいろなことを同時にこなしながら生活しているうちに器用になるのかもしれませんが、それに人生経験によって、どんな絵が良い絵なのか、どういう風に描けばそれなりに見映えのする絵になるのか、知っているからといえます。

小学生のお子様は当然人生経験が浅いです。当たり前ですがお母様と同様には描けません。「まっすぐに線をひいて」と言っても、まっすぐな線の描き方を教えなければわかりません。まんまるな物を楕円に描いて平気な顔をしています。デッサンは対象物を正しく見れるようになるための訓練です。最初からうまく描けるひとはいません。

もしこのあと、お子様と一緒にデッサンを描いてみると、または学校の絵を持ち帰ったとき、学校の絵の宿題を見てあげるとき、「どうしてこうなるの?」「何の絵なのかわからない」「なんでこれ描いたの?」などという否定の言葉はどうぞ言わないでください。アドバイスをするならば、「こういう風に描いたらいいよ」とか「もっと薄い色のほうが実物に近いね」など、具体的に教えるようにしてあげてください。

平成28年11月吉日
PTA 会長 市川 雄一
家庭教育学級委員長 横山 礼

平成28年度 第2回家庭教育学級を実施しました

10月24日(月)、田代りえ子氏を講師としてお招きし、本年度第2回家庭教育学級を開催いたしました。

講師のプロフィール

田代 りえ子氏

女子美術大学 芸術学部卒業。現在、水彩画教室すみれひまわり、アートラボ世田谷などの講師を務め、自身の作品にも尽力し、展覧会にも数多くの出品をしている。

東京展美術協力会員。

当日の様子

約20名の保護者の方々が参加してくださいました。田代先生からはデッサンの描き方やコツだけでなく、絵が描けなくなった子供は一番身近な母親の何気ない否定の言葉の影響が大きい為、描いた絵を否定しない！！などの貴重なお話をいただきました。

参加者全員が真剣にデッサンに取り組まれており、終了後は、久しぶりに集中して楽しかったなどの声が聞かれました。

参加者からのご意見

☆鉛筆1本でこんなに楽しい時間が持てました。今後は親子で絵を描く時間を作りたい。

☆物を立体的に捉えるのは本当に難しい、これからは子供が描いた絵を褒めてあげたい。

☆子供に絵を描くコツを、さりげなく、具体的に教えられるように心がけたい。

☆子供の絵を否定しないこと、勝手に手を加えないようにすること学んだ。

